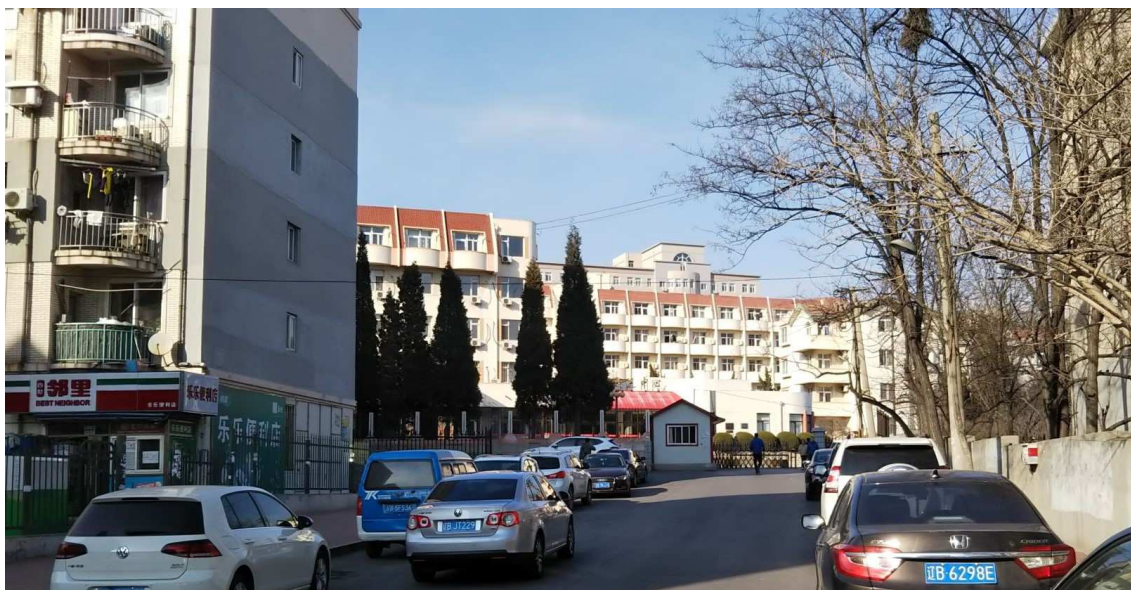


到着の日

2019年2月26日(火)、朝、成田空港に出向き、JAL便で大連に向かった。機は中国国際航空とのコードシェアで、私の隣席にも中国人の女性が座った。中国語で話しかけられないのがもどかしい。3時間15分のフライトで、もう大連市の周水子国際空港へと着く。都心から直ぐ西に位置する空港周辺は住宅街で、建物の多くは高層マンション。初めてこの空港に立ち寄った1993年夏、周囲に工場しか見なかったことを思い出し、時代の変化を感じた。天気は薄曇りで気温は10度台。2月らしい寒さは感じなかった。

これから留学生活を送る遼寧師範大学の国際学生寮は、最近開通した地下鉄でも行けるが、荷物もあることでタクシーとした。25分位の道のりで費用は25元(400円位)。大学の門前の地下鉄駅が見えて来た所で降ろしてもらったが、肝心の大学とその学生寮の位置が分からない。近くを歩く女子学生?に英語で尋ねると、本人も良く分からないらしい。おもむろに取り出したスマホを開いて、バイドゥ(百度)の地図で確認。現代中国では日本同様、スマホは欠かせない道具となっている。歩いて5分、そこで大通りの黄河路から蘭玉街という坂道を5分上る。門を入ると目の前に5階建て前後の白亜の建物が数棟見えて来た。その一番奥に大学専用のホテルがあり、そのフロントで手続き。そこで自室のカード・キーを受け取る。自分の住まいは、そのすぐ下の2号棟1階の個室となった。部屋は7畳半位のバストイレ付きの洋室。木製のベッドと机それにタンス、さらに液晶テレビがあった。西側には窓があり白壁の明るい部屋だった。



蘭玉街から見上げた遼寧師範大学の国際学生寮の建物 赤瓦が載っている

ここまでに使ったタクシー代やキーのデポジットは、前回の旅で残った人民元を持ち込み、それに対応した。部屋で荷を解き身軽になって、先ほどの蘭玉街を下る。黄河路を出た所の近くに中国銀行の支店があった。男性の行員は英語を少し話し、親切だった。ここで4か月間の寮費と授業料などを、人民元に換金した。それをもって先ほどのホテルのフロントに向かう。しかし、この日は出納をしないと言う。多額の現金を部屋に置いておくのは気が進まなかったが、止むを得なかった。

この後は大学内での用事を済ます。まずは入学許可書類をもって大学校舎1階にある留学生の窓口へ。ここで若い男性の董氏と出会う。アメリカ留学の経験があると言うことで、英語が通じた。董氏には、その後もいろいろなことでお世話になることに……。次に隣の部屋で、自分の学生IDとWifi用のパスワードをもらう。これはありがたかった。日本との連絡が直ぐにスマホでできるようになった。

さて気がつくとも夕方になっており、夕食を食べに大学構内で一番高い位置にある北山食府と言う名の、学生食堂に出かける。そこのカフェテリアで茹でた餃子とご飯を取り、夕食となった。この後、学食の食事には不満を募らせることになるが、この時の餃子は大変おいしく夕飯はまずまずだった。

この後、学内の超市(スーパー)によりトレペなどを購入。宿舎での日用品はすべて自分で揃えることになった。寒さを感じない陽気で、正直汗をかいていた。真新しいシーツのベッドで、ぐっすり寝入ることになった。こうして、第一日目が終わった。